

## 口は健康のもと Vol.200

### 赤ちゃんと保護者のむし歯予防

生まれたての赤ちゃんには、当然ですがまだ歯が生えていません。むし歯の原因となる細菌もまだいないはずですが、では、いつ頃からどのようにしてむし歯菌が住み着くのでしょうか。

赤ちゃんは母乳や人工乳による栄養摂取時期を経て、生後5～6か月頃から離乳食が始まります。小さなスプーンで少しずつ野菜のスープ等液状のものを与えていきます。その際、つい親御さんたちがスプーンを舐めたりすることはありませんか？保護者の口の中にも細菌はいますので、それが唾液を通じて赤ちゃんの口の中に入ります。ついついスプーン等を舐めてしまったり、可愛い赤ちゃんに口移ししたりすると、細菌が移ることに繋がります。保護者の方にむし歯が多ければ多いほど細菌も多く、保護者と子どもの細菌の遺伝子型が一致したという報告から、保護者からの細菌伝播が多いようです。歯が生え始めると細菌は口の中に定着しやすくなります。「可愛いからつい・・・」というお気持ちはわかりますが、口移しに繋がる行為はあまり推奨できません。まずは、保護者の方がむし歯や歯周病の治療や予防をして頂ければ、赤ちゃんのお口の健康に繋がります。



奥羽大学歯学部附属病院

小児歯科 教授 島村 和宏